

短歌

北京故宮石渠寶笈展

大塚孝子

内外の賓客迎へし飯店の  
壁を飾りてあの顔この顔

魅せられて黄庭堅の書にかがむ  
男の鼻の縁なし眼鏡

世も末なり 北京飯店の朝の卓に  
若き女ら化粧始めたり

うすぐらき展示室出で秋天の  
藍に疲れたるまなこ濯ぎむ

趙孟頫テウマウフの「人騎図」のポスター目印に  
故宮の朝を大股に行く

ひだまりの故宮のベンチにおにぎりの  
フィルム剥がせば冬はすぐそこ

重く垂るビニール暖簾押し入れば  
石渠宝笈展人溢れたり

五噸あるを道氷らせて運ばせし  
皇帝ありけり「大禹治水玉山」

幾人の手を渡りたらむ「人騎図」の  
余白埋めたる印影の数

台北の「翡翠白菜」に優るとも  
「青玉水仙」の精巧に酔ふ